

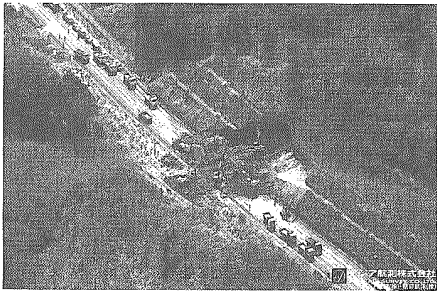
インフラ整備効果を評価

福島県沖地震の被害限定的で 足立議員

自民党の足立敏之参議院議員は、13日に発生した震度6強の福島県沖地震に関する報告を、19日の参議院災害対策特別委員会・理事懇談会で受けた。東日本大震災以降、道路や鉄道の耐震化をはじめ、インフラの整備を着実に進めてきた結果、今回その効果を発揮し、

被害が限定的であったことを確認できたため、それを高く評価した。

また今回、福島県内の常磐自動車道の一部区間で、大規模なり面崩落が発生し写真し、一時通行止めになったことについては、ここが暫定2車線区間であったため、4車線区間であれば通行止めを回避できたことから、災害時に全国



写真・アジア航測提供

の高速道路で円滑な復旧が図られるよう、4車線化を加速することを要望した。

今回の地震では、高速道路の土砂災害が1か所発生、直轄国道では被害がなかった。震度に違いはあるもの

の、東日本大震災時の高速道路の土砂災害346か所、直轄国道被害27か所から見ても、被害は限定的だ。

また、東北新幹線では耐震化を進めてきた結果、夜間にしか工事が行えない電化柱で、補強工事未着手の20本に折損等の被害が発生。20年末までに耐震化完了済みの約2200か所では、被害が発生しなかった。東日本大震災時には、電柱化約810本で折損等の被害が生じていた。